

古地図を
片手に、
まちを
歩こう。

益田

中世の城下町と
幕長戦争の舞台

【島根県益田市】

この古地図の「ココ」に注目！

七尾城から下った道の
変則的な交差点は？
今、その跡は路面に示されています。

曉音寺の前は、敵の侵入を遅ら
せるための鍵曲りになっていました。
今、その跡は路面に示されています。

人通りの多い所に設けられた高
札場。この古地図には中市・下市
の交差点にあります。道の中央を
流れる水路には、幾つもの小橋。
まちのにぎわいがあります。

桜谷に
描かれた塔は？
益田藤兼の墓と伝承されています。こ
の古地図には二つの五輪塔があり、現在
一つが現存。巨大な五輪塔です。

「屋敷跡」とは？

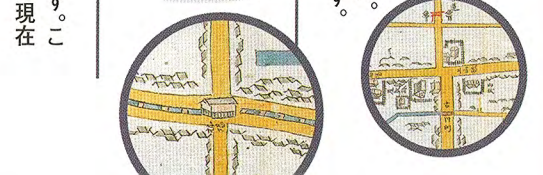
この古地図は江戸時代の益田を描いた
もの。七尾城に近い曉音寺の地は、中
世、益田氏家臣・増野甲斐守の屋敷地
だったと考えられています。

泉光寺に注目！

ここには中世、益田氏の居館
「三宅御土居」がありました。
この古地図には「此処廻り堀
跡」と記され、南北には小高
い土居（土塁）があります。

万福寺の
対岸の建物は？

この古地図には「役所」と記さ
れています。現在の益田市歴
史民俗資料館の辺りです。



この古地図には二つの五輪塔があり、現在
一つが現存。巨大な五輪塔です。

この古地図は江戸時代の益田を描いた
もの。七尾城に近い曉音寺の地は、中
世、益田氏家臣・増野甲斐守の屋敷地
だったと考えられています。

ここには中世、益田氏の居館
「三宅御土居」がありました。
この古地図には「此処廻り堀
跡」と記され、南北には小高
い土居（土塁）があります。

この古地図には「役所」と記さ
れています。現在の益田市歴
史民俗資料館の辺りです。

この古地図には二つの五輪塔があり、現在
一つが現存。巨大な五輪塔です。

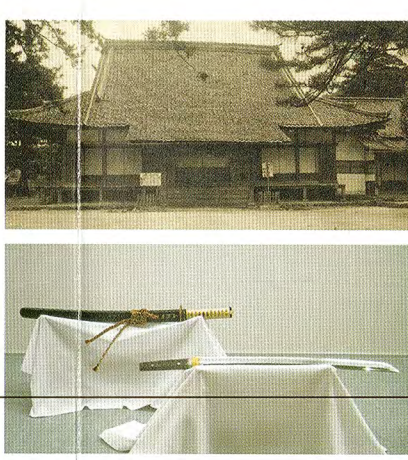
古地図を片手に、
まちを歩こう。
中世、石見国西部最大の
国人領主益田氏の城下町・益田。
江戸時代には浜田藩となり、
幕末には幕長戦争の舞台となりました。
江戸時代の益田の古地図からは
当時の町の姿だけでなく、中世の城下町の姿も
浮かび上がってきます。古地図を片手に、
さあ、あなたも江戸時代のまちへ。

ようこそ。益田で楽しむ古地図歩きへ

益田氏は古くから石見国に勢力を持っていた武士団でした。
やがて山口を拠点とする西国の守護大名・大内氏と結び、大
内氏重臣の陶氏と関係を深めて勢力を広げました。ところが
陶氏が畿島の戦いで毛利元就に敗れ、大内氏は滅亡。毛利氏
が中国地方の雄となります。当主益田藤兼は毛利氏に付く
ことを決断。しかし、その毛利氏が関ヶ原の戦い後、防長一州に
領地を大きく削減されます。益田氏は徳川氏から大名にする
と誘われますが断り、毛利氏に従い、先祖伝来の地を離れ
ました。江戸時代、益田氏は萩藩の永代家老となり、須佐を
拠点とします。時を経て、益田氏は幕末、四境戦争（幕長戦争）
の石州口の戦いの舞台となります。このとき扇原関門を守って
いた浜田藩士・岸静江国治は、部下を退避させ、自分は孤軍
奮闘して戦死。長州軍は岸をたたえ、手厚く葬りました。ま
た、石州口の戦いで長州軍を指揮したのは、大村益次郎。石州
口の戦いは益次郎の名と共に刻まれることになりました。



重要文化財 狩野松栄（益田元祥像）
桃山時代 | 【島根県立石見美術館蔵】



(上) 古写真「昭和8年以前の萬福寺」
この頃は入母屋造だったが昭和8年の大改修
で、創建当時の寄棟造に復元。萬福寺は幕末、
幕長戦争で幕府方の浜田藩が陣を置き、戦いの
舞台となった。本堂の柱に当時の弾痕が残る。
【益田市教育委員会提供】

(下) 石州口の戦いで扇原関門を死守して亡くな
った浜田藩士・岸静江国治の形見として伝わる
脇差。 | 【多田自治会所蔵】



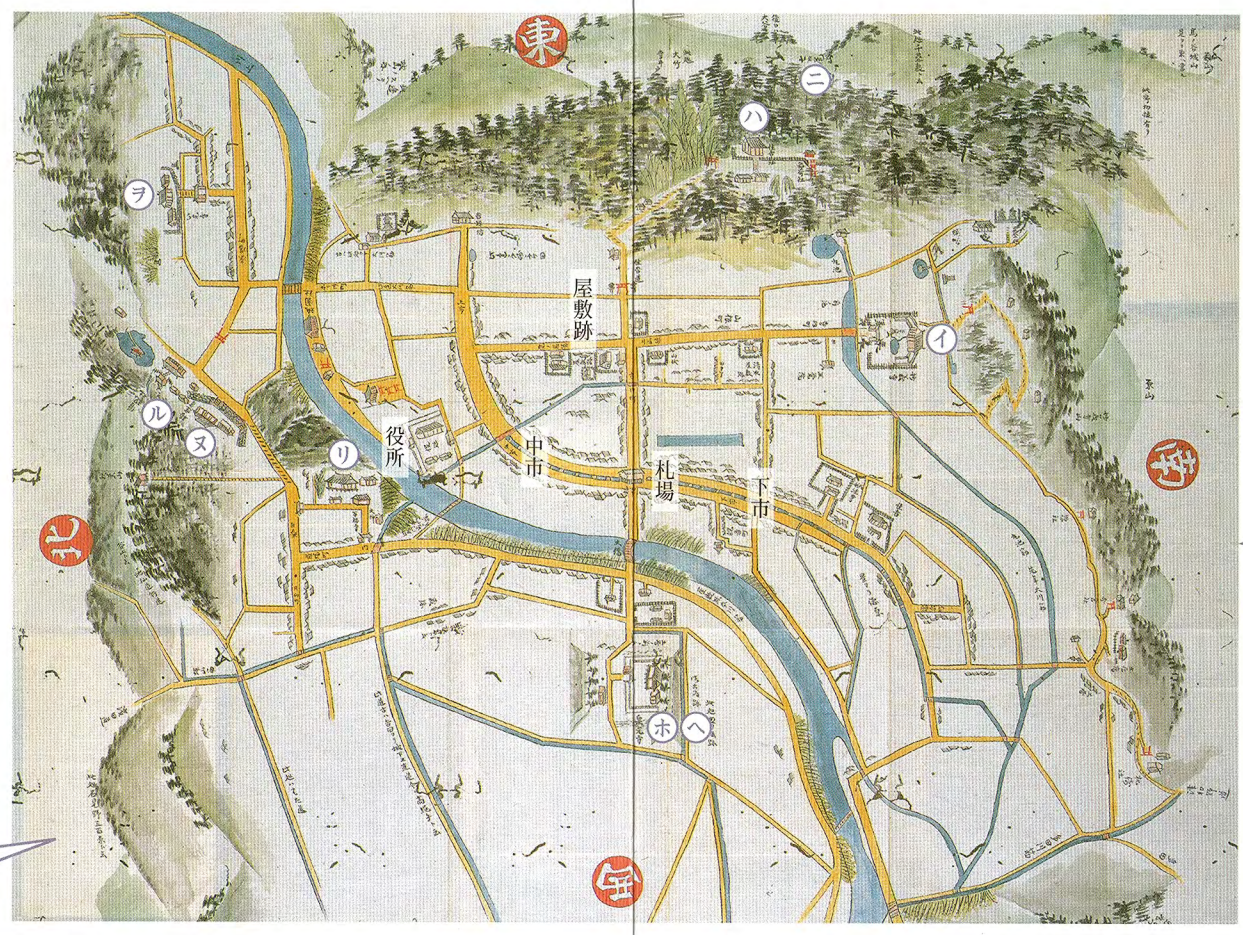
ル 染羽天石勝神社
延長5年(927)の「延喜式神名帳」に名が見える式内社。
中世には瀧藏権現と呼ばれた。本殿は天正9年(1581)に
益田藤兼・元祥父子が改修したもの(国の重要文化財)。

ヲ 臨濟宗 医光寺
貞治2年(1363)創建の臨濟宗崇観寺が前身。応安4年
(1371)、益田兼見が大檀那として本尊・釈迦如来坐像
が造られた。兼見はこの寺を「諸山」とし、益田家が特に
大切にすべき寺とした。雪舟が住職を務めたといわれ、築い
た庭園は史跡・名勝指定。戦国時代、益田宗兼が医光
寺として再興。幕長戦争では、幕府方の福山藩が陣地を
置いた。総門はかつての七尾城の大手門とされ、島根県
指定文化財。

チ 益田市立歴史民俗資料館
大正10年(1921)、美濃郡役所として建てられた。中世益田氏関連遺跡
の出土品や、地元出身の徳川夢声らのゆかりの品などを展示。建物は国
の登録有形文化財。

リ 時宗 萬福寺
応安7年(1374)に益田兼見が創建。創建時の建築様式を残す本殿は
国の重要文化財。室町時代に雪舟が築いた庭は史跡及び名勝。平安・
鎌倉時代の仏像など、中世の益田文化の粋が集まる。

ヌ 真言宗 勝達寺跡
承平元年(931)創建と伝わる。染羽天石勝神社の別当寺として栄えた
が、明治の廃仏毀釈により廃絶。鎌倉極楽寺の重要文化財・不動明王
坐像などが当時の繁栄を伝える。



この古地図歩きのみどころ
イ 曹洞宗 妙義寺
創建は鎌倉時代とも伝わる古刹。天正9年(1581)、益田
藤兼・元祥父子が長門の大寧寺の住職を招いて再興。石
見西部地域の曹洞宗の中心的寺院となった。幕長戦争で
は長州藩の本陣が置かれ、野戦病院ともなった。

ロ 浄土宗 暁音寺
棟札によると天正5年(1577)の創建という。暁音寺は初め
別の地にあり、慶長7年(1602)に石見銀山奉行・大久保
長安の許可を得て、現在地に移転したという。

ハ 住吉神社
益田氏の居城・七尾城の鎮守として、七尾山の中腹にあ
る。天正4年(1576)に創建されたと古文書に見える。

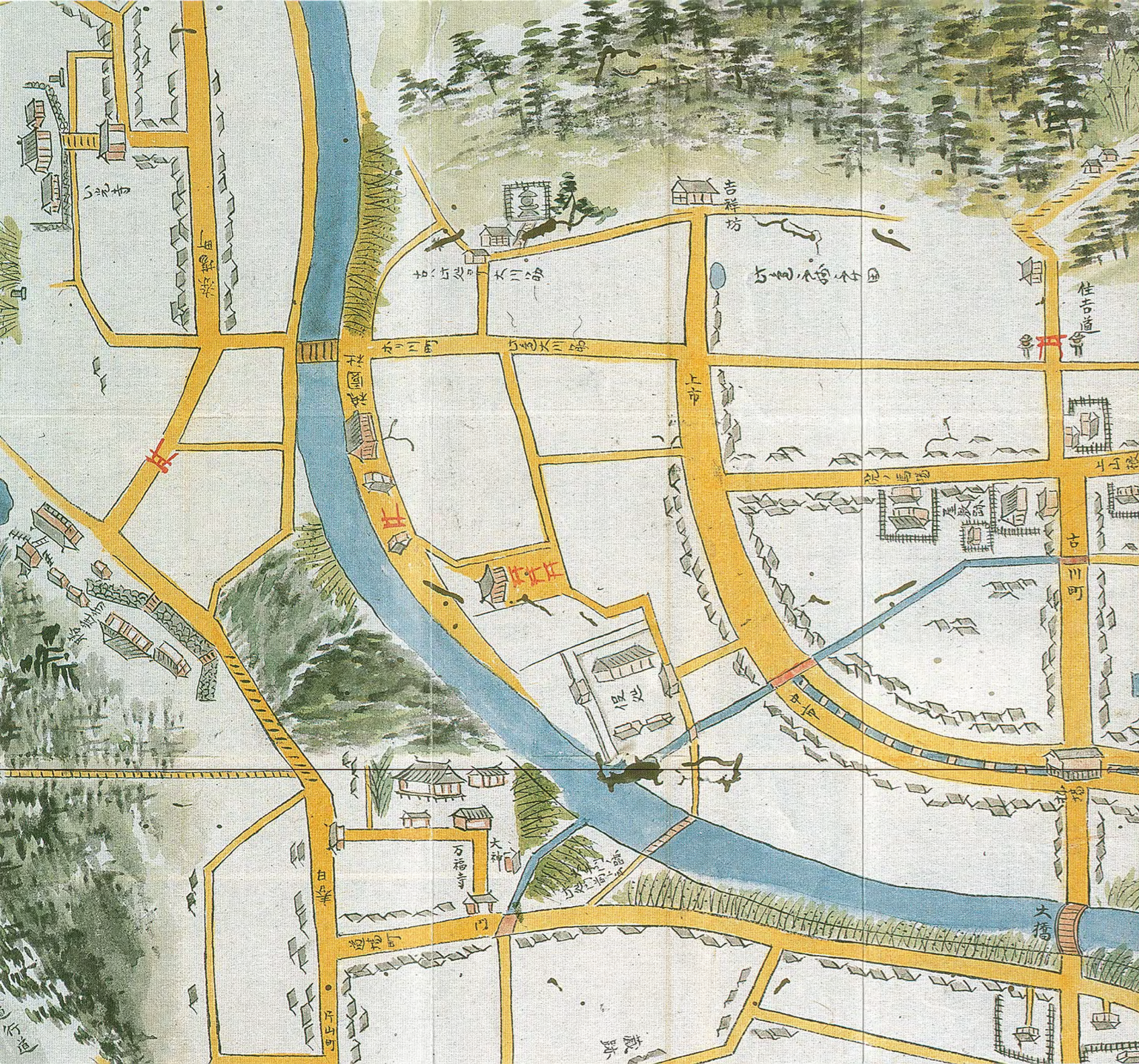
ニ 七尾城跡
益田氏の居城の遺跡。三宅御土居跡とともに益田氏城館
跡として史跡指定。珍しいY字形で全長600m、標高180
m。戦国時代末期には全山要塞化。二の段跡からは庭園
も築かれていたことが分かり、貿易陶磁器も出土。

ホ 浄土真宗 泉光寺
慶長8年(1603)、木村平衛門尉祐光が三宅御土居跡に
創建。近年、500m西方に移転。勝達寺の遺宝「釈迦十六
善神像」(島根県指定文化財)が伝わる。

ヘ 三宅御土居跡
益田氏の居館の遺跡。東西200m、南北は長いところで
100m弱。領主レベルの居館として通常の倍近い規模。東
西の土塁が見どころ。

ト 株式会社右田本店
慶長7年(1602)、もと益田氏家臣の右田宗味が、益田氏
の須佐移転後の町の衰退を憂い、市場を建て、酒屋を始め、
これにより、町は賑わいを維持。それ以来続く、島根県
内で最も古い歴史を持つ造り酒屋。益田氏が毛利元就に
振る舞った料理の再現プロジェクトで、当時の酒を再現し
た「与三右衛門」も醸造・販売している。

古地図 Data
「石州益田絵図」江戸時代後期か
山口県文書館蔵



石州益田地簡
完